

夢窓幼稚園通信第28号

2022年 8月 29日

お泊りはできませんでしたが、青バッチさん(年長)の25日・26日の特別プログラムは、ミラクルタイムでした。滝までの山のぼりや 染物体験・キャンプファイヤーという特別な体験はもちろんですが、...



「いる」ことがただただ「たのしい」という、特別でないことを のどかに体験できる機会でもあった気がします。スケジュールがあるとはいえ、いつもの流れからすると合間の時間がたふぶりあり、そしていつもの人口密度からすると はるかに ゆったりしているのが、おそびややりとりが しっとりとしていて とても穏やかに思えました。そして子どもたちは、いつもの「年長さん」とあるというよりも何だか無邪気で、柔らかな表情で、そのままの自分を表現できる特別な時間だったのかもしれない。



「そのまま」... 「普通に」... いられるということが、「特別である」というのは 実に奇妙ですが、大人ばかりでなく 小さな子どもたちも 実際日常的に「ありのままの自分自身」としているのが 難しい日本の今の時代なのかもしれない。

そうだとするなら とても大変な状況です。



私たちが日々過ごすのですから 私たちが社会を作っているはずなのですが、それぞれの「私」が願っている社会にはなり得ていない!と誰もが思っているのです。



さらに... それなのに満足していない 既存の社会に合わせて生きようと 必死にならざるを得ない二重三重のパラドックスです。



それぞれの「私」が願っている生き方・考え方・環境・文化・人との関係性・時間の持ち方は本来どんなものなのか...、大切にしたいのは何なのか... 夏の終わり、やって来る秋に、虫の聲に包まれながら あらためて確かめ、 今日から明日へと 過ごしたいものです。



いよいよ 2022年度の2学期が始まりました、よき一日いちにちを 皆さまと共に作りたいと思います。

園長 弁光 泰雄

◎ 年長さんの特別体験、例えば たくさん玉おぎの皮のご提供により染物体験が、年中・年少さんの「なかよし」の子たちのたくさんの協力でプログラムが実施できたことを心より感謝したいと思います。